

「夢に向かって」

胎内市立築地中学校 3年
阿部 彩実花

あなたには将来の夢がありますか？あんな職業に就きたい、幸せな家庭を持ちたい、優しくかっこいい大人になりたい……。このように就きたい職業や生活の仕方、なりたい人物像など思い描くものは様々です。そして、たとえなんとなくでも、夢を持っているとしたら、その「きっかけ」というものが必ずあります。また、その夢に向かって今どのように生活するのかは人それぞれで、多様な考え方があるでしょう。

私には小さい頃からの夢があります。その夢のために今やるべきことは何なのか考えてみました。

私が四歳のときです。ある日高熱が続き、病院に行ったところ、腎臓の病気にかかったことが分かりました。それが原因で入退院を繰り返し、当時は月に一度、検査のために通院していました。そんな生活の中で私はある人に憧れをもちました。それは私を担当してくださった主治医の先生です。その先生は私が診察室に入ると、いつも笑顔で迎えてくださり、優しく、丁寧な口調で接してくださいました。先生と話すときと安心して、元気が出て、私も自然と笑顔になりました。今思い返してみると、医師という仕事はとても大変で疲れているはずなのに、私に疲れを一つも感じさせず、話すだけで元気を与えられることの偉大さを感じます。小学二年生の頃に手術を受け、病気が完治した今でも、当時のことを思い出して「先生に会いたい」と思うことがあります。それほど、その先生のこと大好きになりました。こうしていくうちに単なる憧れが、いつの間にか、私も将来この職業につきたい、こんな医師になりたいという大切な夢になりました。

私が医師になりたいと思ったきっかけはこれだけではありません。私の弟は、生まれたあとに脳に障害があることが分かり、この先、車椅子生活になるかもしれないと言われていました。そのことに私の母は自分を責めるほどのショックを受けていました。それでも母が前向きになれたのは、家族、そして医師の方が支えてくれたおかげでした。母は、医師の方の言葉や気遣いに励まされ、希望をもらったそうです。そして、希望を捨てずに、たくさん歩く練習をして、

弟は二歳になった頃、自分一人で歩くことができるようになったのです。キラキラとした眼差しで、私と母のもとから父のもとへとまっすぐに自分の足を動かしながら、初めて歩いたあの瞬間は忘れられません。こういった体験を通して、患者さんだけではなく、その家族にも寄り添い、心を救うことができる医師に私もなりたいたいと思いました。

医師という職業をやり遂げるには、専門的な知識とそれを応用する力、リーダーシップやコミュニケーション能力、生涯に渡って学び続ける姿勢などたくさんの方が必要不可欠です。また、医師になるまでの長くて険しい道のりを乗り越えるには、たくさん努力することが大前提になるのではないかと思います。そう考えたとき、私にある一つの疑問が浮かびました。「そもそも、努力とはどのようなことを言うのだろうか」と。元プロ野球選手で監督としても活躍した王貞治さんはこんな名言を残しています。「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのならば、それはまだ努力と呼べない。」私はこの名言から、目標に向かって諦めずに継続して取り組むことでそれが結果として表れ、そうしてはじめて「努力」と呼べるようになるということを知りました。ですので、今のうちから、様々な物事において、自分の目標を明確にしながらか、最後まで諦めずに取り組み、「やりきれた」と実感できることを増やしていきたいです。そして、努力できたという経験を自信に変えていきます。

きっと、医師になるまでの過程で辛いことや、挫けそうになることがたくさんあると思います。そんなとき、今まで努力したことを思い返し、自分自身を信じて前に進みます。そして、患者さんと家族に寄り添い、たくさんの方の心と命を救うことのできる医師に私はなります。